

単元名 かずと すうじ(10までのかず)

配当時間 5時間

単元の目標 (1) 10までの数の数観念、読み方、書き方、数系列、大小を理解することができる。
 (2) 物の集まりを捉え、数を数え、数を表す考え方を身に付けることができる。
 (3) 10までの物の個数を、数で表すよさを知り、進んで用いようとする。

標準的な展開例

01040101_001

【準備等】数図ブロック、1から10までの数字をかいたカード、タンバリン

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 6から10までの数を順序よく唱えたり数えたりする。 [p. 12・p. 13] ○ 広場にある物の絵を見て、その数について話し合う。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いろいろなもののかずをいみましょう。 ○ 6から10までの数字の読み方について知る。</p> <p>○ 教科書の広場にある物を数図ブロックに置き換える。</p> <p>○ 分かったことを話し合う。</p> <p>3 6から10までの数字を書く。[p. 14] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 6から10までのかずをかぞえてすうじであらわそう。 ○ 数字をなぞって書いたり、見て書いたりして、形を覚える。</p> <p>○ 具体物の数を数字で書き表す。</p> <p>4 果物の数を数えて、6から10までの数字で表す。[p. 15] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ いちばんおおいものはどれかをかんがえよう。 ○ 果物の数を数える。</p> <p>○ 数え方のページを見て、いろいろな数え方を知る。</p> <p>○ 学校にある身近な物の数を数える。</p> <p>5 10までの数を数図ブロックで並べたり、カードで示したりする。音の回数を数字で表す。[p. 16・p. 17] ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 10までのかずをならべたり、くらべたり、かぞえたりしよう。 ○ カードで示された数の数図ブロックを並べる。 ○ 1から10までの数を言う。 ○ 数の大きさ比べをする。</p> <p>○ タンバリンの音の数をカードで表す。</p>	<p>・ 入学期の指導からの継続を図り、具体物や半具体物を用いて、数字と対応させる。 ・ 数図ブロックに置き換える場合については、児童の教科書と同じ絵の拡大図を用いて説明するとよい。 ・ 本時の学習の興味・関心を喚起する。</p> <p>・ 個別または一斉に、唱える活動を適宜取り入れる。 ・ 5を1つのまとまりとして捉えさせることを大切にするため、数図ブロックを2段に置き「5といくつ」という形でブロックを並べさせる。 ・ 1ずつ増えた物の数に合わせて数図ブロックを増やしていき、6から10までの数え方を確認する。逆に順に1ずつ減っていく物に合わせて数図ブロックを操作する活動も行う。 ・ 学習を振り返り、分かったことを発表させる</p> <p>【評】 5を基にし、1ずつ増やしながら数える活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 具体物や半具体物の数と数字を結び付けて考えられるようにする。 ・ 入学期に5までの数について学習したことを想起させる。 ・ 7や8、9は筆順を間違えやすいので注意する。8は斜めに傾いてしまわないように形に気を付けさせる。 ・ 逆さ文字になったり筆順を間違えたりしないよう気を付けさせる。</p> <p>【評】 6から10までの数字を書く活動を通して「知識・技能」を評価する。 ・ 数を数えた後に、数字で表させる。数え方のページを見て、身近な物の数を数えさせる。</p> <p>・ 数図ブロックを置いたり、数えた物に印を付けたったりして工夫して数えさせる。 ・ 物の種類によって、数え方が異なることに気付かせる。 ・ 入門期であるため、学級の状況に応じて場所を決め、数を見付けさせる。</p> <p>【評】 物の数を数え6から10までの数字に表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 場面や状況が変わっても数が使えるようにさせる。</p> <p>・ 1人で言わせた後で、ペアでも行わせる。 ・ ゲームの要素を取り入れ、楽しく学習できるようにする。</p> <p>【評】 10までの数を数図ブロックで並べたりカードで示したりする活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p>

【 備 考 】

本単元は、10までの数概念を身に付ける学習である。入学期の指導で、5までの数概念を身に付けているので、ここでは10まで拡張して数概念を理解させる。児童は入学前の生活経験から、ある程度の知識をもっている場合が考えられるが、それらの知識は断片的・表層的である場合が多い。そこで、体系立った数の学習として体験を多く取り入れながら丁寧に指導することが大切である。